

TEZUKAYAMA GALLERY | 2022.9.16 Fri. - 10.15 Sat.

Viewing Room



タツヒコ | Tatsuhiro, 2022

タムラサトル | Tamura Satoru | ワニがまわる理由は、聞かないでほしい | Don't Ask Why the Crocodiles Spin

このたびTEZUKAYAMA GALLERYとMAKI Galleryではタムラサトルの個展「ワニがまわる理由(ワケ)は聞かないでほしい」を共同開催いたします。

本展では、今年6月に国立新美術館(東京・六本木)*1 で好評を博した同作家の個展に続き、タムラが30年近くにわたり制作を続けてきた代表作「まわるワニ」シリーズに焦点を当てます。大阪・南堀江と東京・表参道の2会場で合計1,000頭以上のワニが回転し、彩りと動きの爆発が、鑑賞者を非現実的なダイナミズムで包み込みます。タムラのワニは電動の機械装置にも関わらず、作家自身の手で一つ一つ形成され、ユニークな名前を付けられることにより、独特な温かみと個性を有します。

作品そのものの意味性・目的性を徹底的に排することをテーマに制作をしてきた、タムラサトルの原点とも言える「まわるワニ」の過去作から最新作までが一堂に会する機会となりますので、是非ともご高覧下さいませ。

[アーティスト・ステートメント]

ワニがまわる理由は、聞かないでほしい。

大学3年の秋「電気を使った芸術装置」という課題がありました。電気に関する知識がなく未経験の分野だったため、かなり困惑しました。プラン発表の前夜、朝起きて最初に思い描いたものを作ると決めて就寝。翌朝、なぜか「ワニがまわる」という絵が浮かび、それを作ることにしました。

それは、4.5メートルのワニが毎分30回転(1994年当時)する作品で、そのわけのわからなさに、自分で作ったにもかかわらず、何か得体の知れない物に出くわしたかのような、強烈な興奮を覚えました。この時、初めて作家になるということを強く意識しました。

その後、なぜ「ワニがまわる」のか、意味を考えながら、作り続けました。その結果「ワニがまわる」ことに意味があるのではなく、「よくわからないが、なぜかワニがまわっている」という不思議なこの状況こそが、作品の面白さの本質であることに気づいたのです。

「なぜ、ワニがまわるのか」という問いに、答えはありません。この大きな疑問を、そのまま疑問として持ち帰ってほしいと思っています。

タムラサトル



*1「ワニがまわる」国立新美術館 展示風景 撮影:金田幸三

□ 作家略歴 | Biography

タムラサトル

1972 栃木県生まれ

1995 筑波大学 芸術専門学群 総合造形卒業

2011 日本大学 芸術学部 デザイン学科 非常勤講師(現在に至る)

2015 宇都宮メディア・アーツ専門学校 ビジュアルデザイン科非常勤講師(現在に至る)

主な個展

2022 「ワニがまわる」| 国立新美術館(東京)

2021 「タムラサトル展 TOKYO マシーン」| 銀座 蔦屋書店(東京)

2019 「第14回アーティスト・イン・スクール タムラサトル(現代美術家)×川口市立前川東小学校6年生89人成果発表展〈われわれはワニを回す〉
／講師作品展〈川☆ロマシーン〉」| 川口市立アートギャラリー・アトリア (埼玉)

「プラザノース開館10周年記念展 Domain of Art 22 仏サトル展 Wall to Wall」| さいたま市プラザノース ノースギャラリー(埼玉)

2017 「0-9」| TEZUKAYAMA GALLERY(大阪)

2014 「愛マシーン」| TEZUKAYAMA GALLERY(大阪)

「タムラサトル《真夏の遊園地》」| 栃木県立美術館(栃木)

2010 「キャッチ・アンド・リリース」| Art Center Ongoing(東京)

「小山マシーン」| 小山市立車屋美術館(栃木)

主なグループ展

2021 「Connect #1」| MAKI Gallery 天王洲 I (東京)

2019 「心ある機械たち again」| BankART Station + BankART SILK(神奈川)

2017 「カミナリとアート 光／電気／神さま」| 群馬県立館林美術館(群馬)

「Non-traditional Imagination」| DYNASTY GALLERY(台北、台湾)

「INTERNATIONAL LIGHT ART AWARD 2017」| 国際ライトアートセンター(ウナ、ドイツ)

2016 「釜山ビエンナーレ2016」| 釜山市立美術館 Kiswire Factory (釜山、韓国)

2014 「開館15周年記念展 TARO賞の作家II」| 川崎市岡本太郎美術館(神奈川)

「THE MIRROR」| 名古屋商工会館(東京)

2013 「あいちトリエンナーレ 2013 企画コンペ」| 長者町会場(愛知)

「こども+おとな+夏の美術館 アートといっしょ」| 群馬県立近代美術館(群馬)

2012 「HOOLS」| ZACHETA NATIONAL GALLERY OF ART(ワルシャワ、ポーランド)

「Excessive!ー過剰化する表現ー」| 500m美術館(北海道)

「夏休みこどもミュージアム つながるとどろき」川崎市市民ミュージアム(神奈川)

「光あれ!ー光と闇の表現者たち」| 栃木県立美術館(栃木)

「六本木アートナイト2012」| 六本木ヒルズ他(東京)

2008 「リバプールのビエンナーレ 2008 “Pop Up” exhibition by Jump Ship Rat」
| Huskisson Monument, St James' Gardens (リヴァプール、イギリス)

2007 「CONSTRUCTIONS OF NATURE」| ウブサラ美術館(ウブサラ、スウェーデン)

2005 「世界の呼吸法ーアートへの呼吸・呼吸のアート」| 川村記念美術館・佐倉市立美術館(千葉)

2003 「First Steps : Emerging Artists from Japan」| P.S.1 Contemporary Art Center(ニューヨーク、アメリカ)

展覧会概要 | Exhibition Information

「ワニがまわる理由(ワケ)は聞かないでほしい」

2022.9.16 Fri - 10.15 Sat

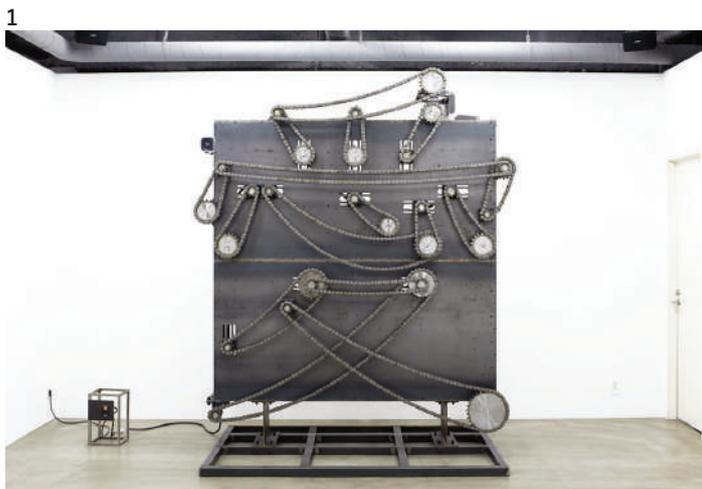
タムラサトル | Tamura Satoru

[各会場 営業時間]

・大阪会場: TEZUKAYAMA GALLERY - VIEWING ROOM
 OPEN: 火曜-土曜 | 12:00-19:00
 CLOSED: 日曜・月曜・祝日

・東京会場: MAKI Gallery / Omotesando, Tokyo
 OPEN: 火曜-土曜 | 11:30-19:00
 CLOSED: 日曜・月曜

※東京会場(MAKI Gallery)は会期が異なりますのでご注意ください。



1: 愛マシン, 2014, Photo by Yuji Yamazaki 2: Spin Crocodile 4SW, 1998, Photo by Takeshi Asano
 3:「0→9」Exhibition view, Photo by Takeshi Asano 4:100の白熱灯のための100のスイッチ#4, 2019, Photo by Kozo Kaneda

お問い合わせ | Contact

[大阪会場]
 TEZUKAYAMA GALLERY - VIEWING ROOM
 (〒550-0015 大阪市西区南堀江1-19-27 山崎ビル2F)

[お問合せ]
 Mail | info@tezukayama-g.com
 Tel: 06-6534-3993

[webサイト]
<https://tezukayama-g.com/>

[東京会場]
 MAKI Gallery
 (〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-11-11)

[お問合せ]
 Mail | info@makigallery.com
 Tel: 03-6434-7705

[webサイト]
www.makigallery.com